

平成 30 年度 福井大学地域貢献事業支援金  
**異世代ホームシェア事業の運営**

事業責任者： 菊地 吉信（大学院工学研究科・准教授）

<b>概 要</b>	異世代ホームシェアとは高齢者宅の空き室を学生が借り、家主である高齢者と学生とが共同生活を送る住まい方を指す。孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、高齢者と学生の双方に様々なメリットが期待できる。前年までの試験的運営を通じて事業の運営方法をほぼ確立することができた。今回申請ではこれまでの活動を礎として、さらなるマッチングの実現と事業の発展を目的とする。本年度はその3年計画の1年目として、新規マッチングの実現と事業の発展を目的とした。事業期間を通じて学内外での広報活動を積極的に行い、地域住民に事業について周知した。また関係機関との連絡・協力関係も強化し、同様の事業を実践している京都府住宅課との情報共有をはかった。しかしながら年度内に新規のマッチングを実現することはできず、今後は広報体制のさらなる強化を考えている。
<b>関連キーワード</b>	ホームシェア、高齢化、世代間交流、空き室・空き家、住環境

### 事業の背景および目的

高齢化と少人数世帯の増加は全国的傾向であり、高齢期の世帯とくに単独世帯にとっては、日常的な住宅の手入れや防犯など住み慣れた環境を維持するための身体的・精神的負担が自立した生活を続けるうえでネックとなるものと想定される。また住宅と世帯の関係をみると、住宅規模に対して世帯規模が小さく、ふだん使用しない空き室を抱えていることが窺われる。一方、一人暮らしの若者は生活費を節約する傾向にあるが、生活費のうち住居費の占める割合は依然として大きい。また不慣れた土地での一人暮らしに馴染めず孤立感にさいなまれるケースも生じている。以上のことから、異世代ホームシェアを導入することにより、家主と若者双方の孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、双方にとって様々なメリットのある住まい方となることが期待できる。

今回申請ではこれまでの活動を礎として、さらなるマッチングの実現と事業の発展を目的とする。本年度はその3年計画の1年目として、新規マッチングの実現と事業の発展を目的とする。

### 事業の内容および成果

本事業は福井県社会福祉協議会との共同で実施しており、平成 29 年度までに試験的運営として延べ 5 組のペアを実現している。今年度は本格的な運営の段階に進むため、新規マッチングの実現とそのための広報活動、関係団体との連携に取り組んだ。

結果として、年度内に新規マッチングを実現することはできなかった。

広報活動としては、福井大学文京キャンパス近くの公民館行事に学生スタッフが定期的に参加し、事業の PR に努めるとともに、地区民生児童委員との連絡関係を築き、利用希望者募集に協力していただいた。また福井県立大学、福井大学医学部にも学生利用者募集のポスターを掲出した。

関係団体との連携については、同様の事業を行っている京都府住宅課と情報交換を行い、京都の事業および利用者の状況を教示いただいた。

以上のように、新規マッチングが実現できなかった点を反省し、今後は福井県社会福祉協議会とも相談の上、いっそう積極的な広報活動を行うとともに、京都府等他地域の取り組みを参考にすることで、利用促進をはかる必要があると考えている。

### 参考文献・添付資料および特記事項等

# 事業名称:異世代ホームシェア事業の運営

事業責任者: 菊地 吉信 (大学院工学研究科・准教授)

## 背景と目的

異世代ホームシェアとは高齢者宅の空き室を学生が借り、家主である高齢者と学生とが共同生活を送る住まい方を指す。孤立防止と安心創出、住宅管理および住居費の負担軽減等、高齢者と学生の双方に様々なメリットが期待できる。前年までの試験的運営を通じて事業の運営方法をほぼ確立することができたと考え、今回申請ではこれまでの活動を礎として、さらなるマッチングの実現と事業の発展を目的とする。

## 主な成果

前年度までに延べ5組のマッチングを行っているが、今年度は新規マッチングを実現することはできなかった。広報活動としては文京キャンパス近くの公民館行事に参加しPRするなどした。また松岡キャンパスや福井県立大学にも学生利用者募集のポスターを掲出した。さらに、同様の事業を行っている他地域の情報収集を行った。今後はいっそう積極的なPRを行うとともに、他地域の取組みを参考にすることで、利用促進をはかる必要がある。

